



大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター
 TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
 ■事務所：〒299-3251
 大網白里市大網 450-6 ユアサビル 2 階
 TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
 ■会長：大越 将司 幹事：星野 実
 ■広報・公共イメージ向上委員会
 委員長 小倉 光男・会報担当 石田 英世

2023年9月6日(水)
第25巻第9号

通巻第1039号

<http://www.oamirotary.com>
 E-mail: rc@oamirotary.com



本日の例会

点鐘 会長 大越 将司
 唱和 四つのテスト
 ソング 奉仕の理想
 会長挨拶 会長 大越 将司
 幹事報告 幹事 星野 実
 プログラム

1. 9月誕生日祝い 星野 実 会員
2. 会員卓話 四之宮由己 様
「入院生活でのお話」

ニコニコBOX

大越会長
 呉くん、いつまでもあかるさを忘れずに。
 ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

例会日	8月30日	8月9日
会員数	30	30
出席	17	15
欠席	13	15
M U	0	0
免除	8	10
出席率	83.33%	83.33%

会長挨拶

大越 将司 会長



みなさん、こんにちは。本日は、米山奨学生・呉くんの卓話、そして大網ロータリークラブでの最終日です。今後も大学院で学び続けるとのこと、さらなるご活躍をこころよりお祈り申し上げます。

さて、明後日9月1日は「防災の日」です。ちょうど100年前の1923年（大正12年）午前11時58分、相模トラフを震源とするM7.9の大地震が発生しました。「関東大震災」です。死者は10万人以上、そのうちの約9割は火災による焼死とのこと。被害総額が約55億円。当時の国家予算が約14億円ということですから、その被害の大きさを知ることができます。この震災の発生した日にちなみ、1960年に防災の日として閣議で制定されました。9月は台風被害が1年を通じて最も多く、この前年1959年に伊勢湾台風が発生したことも一因だったようです。私の小学生時代、夏休み明けの初日に、全校生徒で必ず防災訓練を行っていたので、よく覚えております。

ところが先日、日本赤十字社の防災意識調査で、国民の半分はこの「防災の日」の由来が、関東大震災であるということを知らないという、調査結果がニュースになっておりました。世代別にみると、50代～70代で知らないという方が約38%であるのに対し、40代50.5%、30代69%、20代56%と30代前後は半分以上知らないという結果になりました。みなさんは、いかがでしょうか。

「天災は忘れたころにやってくる」の名言で有名な、物理学者・寺田寅彦が、災害についてこのようなことを言っています。「災害を防ぐには、人間の寿命を10倍か100倍に延ばすか、災害の周期を10分の1か100分の1に縮めるかすればよい。そうすれば、災害はもはや災害でなくなるだろう。それができないならば、人間が過去の記録を忘れないように、努力するほかないだろう」

100歳以上生きる方は、それほど多くないと思います。100年前の災害、78年前の戦争を記録として忘れず、未来の天災に備えることが今こそ大切だと改めて感じました。9月からの防災月間、みなさまもどうぞご安全にお過ごしください。

米山奨学生終了式 ・ カウンセラー感謝状贈呈



奨学期間 2023/4/01～2023/08/31 呉 高潔 様



石田カウンセラー

大学で力を入れたこと

皆さんあらためてこんにちは 8月31日城西国際大学の卒業式で発表し卒業する予定の呉高潔と申します。本日は近況報告も含めて卓話をさせていただきます。卓話のテーマは 大学で力を入れたこと。

前回で皆さんにも紹介しました、自分はまだ中国で日本語を勉強している期間、学院の代表として地元の福祉施設の長期ボランティア活動に参加しており、3ヶ月ほど続けてきました。それをきっかけに、自分は福祉に関心を持ち2021年に福祉総合学部の学生として城西国際大学に入学しました。

そこで、大学ではすでに社会問題になっている、虐待問題に注目し、卒業論文では特に日中における若い親の虐待問題の実態と特徴を明らかにしました。論文では、子供のメンタルヘルスアセスメントに基づいて初めて社会的・文化的な視点から両国の若い親の虐待問題に影響を与える要因を分析しました。要因として、時代と共に変わった子育て理念、親の教育程度、生活のストレス、社会意識という四つの尺度に注目しているが、実は、若い親に注目するだけでなく、自分たちは保護者の立場から、虐待を受けた子供たちの心の動きをどのように理解しどのように保護すべきかも重要視しなければいけません。

まだまだ未熟な研究ですが、自分の卒業論文の内容です。そして、自分は、コロナ禍為、去年の七月に初めて日本に来ましたが、学校の留学生センターや日中友好協会を通して、例えば中国に留学する日本人学生に中国語を教える活動や、キャンパス内で行われた小学生のバザー、2ヶ月前山武市で日中友好協会が主催した交流会等、いろいろなボランティア活動に参加しました。幸い奨学生になってからもずっと、ロータリーでの、母国と日本とのかけ橋として、国際平和の創造と維持に貢献するという核心理念に基づいて、自分は、以上のような活動を実践すればするほど、言語は文化交流にとっても重要性をもつと実感しました。そこで、自分は福祉事業だけでなく、言語教育のかけ橋として、中国と日本をもっと繋げたいという気持ちが強くなりました。そこで、自分は日本語教育に注目し、中国浙江省の日本語教育の実態、とくに浙江省南側の日本語学習者が身につけている方言と日本語学習との関連性に興味をもちました。しかし、研究を支えられる言語の音声知識だけでなく、第二言語学習者のアイデンティティについての知識が不足だと痛感し、修士で勉強するための日本語教育の知識を半年間たくさん勉強しました。そして、8月の28日つまり一昨日、早稲田大学の日本語教育研究科に出願しました。前ははまだ報告はしていませんでしたが、先述したように自分が研究したいテーマとして、中国浙江地域における日本語教育の実態、特に浙江省南側の日本語学習者が身につけている方言と日本語学習との関連性を探究したいと思っています。

中国における日本語教育業界では近年、日本語学習者の数が増加傾向にあり日本語の潜在的な学習需要は連年増大している。学習者数が増加すると同時に、母語や文化、目的や動機、性格や能力などによって多様化していますが、日本語教育業界では「日本語教育は、日本語母語話者の言語観や文化観に基づいて行われてきたが、それでは日本語学習者の多様性に対応できない」と指摘されている。自分は、対応ができないことの一つは母語の多様性ではないかとそういう風に考えています。

日本語学習者が母国語に対する意識や知識が、学習者自身の動機づけや学習方略、言語能力などに影響を与え、日本語学習者の母国語に対する理解は日本語学習の面で優位を示している、第二言語習得の視点からみると、母語からもたらす学習影響はあらゆる面で見られる。一方、中国人学習者の場合では、中国語が母語として一般的に認識されているが、実際には多くの場合は中国語ではなくそれぞれの方言が母語となる。

浙江省をはじめ、中国の各地域はいずれも方言という極めて民族を代表する文化にあふれている。中国には「一村一県一方言」という古い言葉がある。多様な方言の後に、いくつかの大きな方言は、規範的な学習チュートリアルを持っていることを除いて、ほとんどの方言の継承方法は、主に口コミであっても、方言を口コミで伝える機会を減らしつつあると述べている。これは中国の現代の言葉の定着につながる、民族を代表する色彩文化を持つ方言は、使用者が大幅に減少する絶滅の危機に直面している。自分は、呉語方言が話せる日本語学習者を対象に、呉語の優位性を発揮させ、呉語をはじめとする浙江地域の方言の復興および日本語学習の新視点を模索していきたいと考えている。

そこで、自分の出身地は浙江省の温州ですが、温州を含めて、浙江省の南側では古くから地域更に国を跨った商売が繁盛していたので、中国語の公用語が定着していない時に多くの方言が存在していました。

すこし話題に離れましたが、自分のおじいちゃんとおばあちゃんの時代には、中国語の公用語が定着していない一方で、住んでいるところはかなり立ち遅れた田舎でした。そこで、中国語が話せない代わりに、閩南語という方言で生活してきました。

自分のお母さんは仲人で紹介された温州中心地区の人で主に温州語という方言を話しています。そこで、私のお父さんと両方の影響を受けて、閩南語でも温州語でも上手です、仕事上で更に蛮語という方言まで話せます。

自分も少し方言が話せますが、学校ではすでに中国語の公用語を使っていますので、これらの方言は話すよりも聞く方が得意だと思います。

以上のように、方言は浙江以南の地域で普遍的に存在するものであります。2021年度国際交流基金の調査によると、中国の日本語学習者人数はおおよそ105万人で、全世界の日本語学習者数の27.4%を占めている。また、中国の教育先行テスト地域として、浙江省の日本語教育政策から見ると、2007年からすでに大学入試の日本語がいち早く開設され、つまり自分のように英語の代わりに日本語で大学入学試験に参加することも可能になりました。

実は、自分はまだ中国で日本語を勉強している時に、よく外部の先生から浙江の人はなんか日本語を勉強するのが速いってつっこまれました。冗談みたいな話ですが、自分はちゃんと理由があると思います。

その理由はと言うと。続きは、(わんたん、せかい、かしゃなどの例、中略)。

以上のような関係性は、私みたいに方言を身につけた日本語学習者しか知らないからこそ、日本語を勉強しているうちに、「ああ、わんたんの発祥地はもともと温州じゃないですか」このように、自分しか知らない達成感やモチベーションを与えてくれ、ずっと日本語を勉強してこれました。そこで、自分は方言を身につけた日本語学習者を対象に以上のように浙江の南側にある方言と日本語との関連性を探り、私の今後の日本語教育の手法に応用できないかこのテーマを選びました。この分野では学ぶ所がはまだまだ多いのですが、焦らずに自分の研究を進めていくつもりです。

